

8・6ヒロシマ闘争へ!

2016年7月18日
No.391

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

反戦バリストを闘った4人の京大生への 「無期停学」処分弾劾!

作部羊平・同学会中央執行委員長の戦闘宣言

●山極総長による反戦ストへの無期停学処分を許すな! 絶対に粉碎しよう!!

今回、私を含む4名の京大生に対する無期停学処分が下されました。絶対に許すことはできません! 学生の声をすべて無視抹殺し、学生が実力行動に立ちあがれば無期停学にして、ひとりの人間の人生をめちゃめちゃに破壊する。そして「戦争と貧困」に突き進む安倍や資本家どもに付き従う。社会の発展を担うはずの大学は、今やここまで腐敗しました。無期停学の理由は、昨年10月の反戦バリストが「大学の秩序を乱すもの」だからだと書いています。まったくその通りだ! 私たちはまさにこうした大学の秩序を乱し、解体し、学生や労働者民衆が主人公になれる大学のあり方を模索するために、バリケードを張ったのです。

「学生の授業を受ける権利を著しく侵害」だと! TOEFL強制やGORILLAによって、学生から自由に授業を受ける権利をとことん奪ってきたのは一体誰だ! このグローバル人材育成の本性は、先日バングラデシュで殺された日本人のように、「日本企業の経済侵略(超低賃金の強制)を進めて、現地の人の怒りを受けて死んで来い」というものです。

「教職員の執務を著しく妨害」だと! そもそも予算削減のために教職員の解雇・非正規職化をどんどん推し進め、日々の生活を破壊してきたのは一体誰なのか! カリキュラムを変えて、教職員の執務を無駄に増やしてきたのは当局ではないのか。

「平穏な教育研究環境を著しく阻害した」だと! まさにそ

4学生をキャンパスから排除しようとする当局職員と対決し撃退!(7月15日)



の平穏な環境の下で、原発反対を訴える教授への差別が行われ、研究者や学生が薄給・無休でこき使われ、あげくに核開発まで行われているのではないか!

山極総長が言い渡した今回の無期停学は、「大学の敷地に入るな。単位は出さない。授業も課外活動も認めない。でも学費は払え。当局に頭を下げて運動をやめると誓うなら解除を考えてやる」というものです。ふざけるんじゃない! 山極こそ京大から出ていけ!

私は、昨年10月の反戦バリストを主導した現委員長として、そして「ゴリラ討伐×バリスト」を掲げて信任された次期委員長として、断固として折れず、曲がらず、この攻撃を粉碎して第二波バリストに突き進みます。すでに世界中で労働者・学生の闘いが爆発しています。

京大バリストは、ストライキと国際連帯ですべての戦争を止める、その最先端の攻防です。ともに闘いましょう!



鈴木たつお参院選で街頭演説する作部羊平君(上・被処分者)と阿津良典君(下・被処分者)



京都大学4学生への「無期停学」処分に反対し全国のみなさんに訴えます

2016年7月18日 全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

7月13日、京都大での学生運動・学生自治の復権へ最先頭で活動してきた全学自治会同学会の4学生に対し、京大当局は「無期停学」分を下しました。その理由は、昨年10月27日の日本の大学では21世紀初のバリケードストライキが、「大学の秩序を乱すもので決して許されるものではない」とされています。大学への入構、単位履修、課外活動への参加、大学設備利用など学生の全権利を停止しながら、「学籍を維持したかったら学費だけは払え、解除してほしいければ頭を下げて運動をやめると誓え」というきわめて卑劣な処分です。私たちは、この処分は4学生だけ、大学・学生の問題だけではなく、社会のこれからの歴史を左右する問題として、絶対に許せません！ 処分撤回へ、総力で反撃します。すべての労働者・学生・市民のみなさんに、ともに行動に立ち上がることを呼びかけます。

私たちは昨年の全学連大会で、全国で戦争反対を掲げた学生ストライキへ挑戦することを呼びかけました。昨年10月の京大バリストは、京大の仲間たちが安保関連法(戦争法)にわき起こった怒り、強行採決された悔しさに向き合って決断した「戦争反対・大学の戦争協力阻止」を掲げた闘いであり、全世界で切迫する戦争の危機への国際連帯を呼びかけるものでもありました。「激化または切迫する世界戦争危機の反面で、ともに闘おうと差し伸べられている海外の仲間の手に、見えないふりをするにはできない。戦争をとめるための百篇のすばらしい理屈の先に、決断と具体的行動とがいま求められている。同学会中執は10月27日京大反戦ストライキをなにがなんでも貫徹します」(同学会HP)。

すでに今年3月、京大当局・山極総長体制は公安警察と協力し、全学連委員長や同学会委員長を含む6人の仲間を「ストライキ=威力業務妨害」として逮捕させ、大学ストを「犯罪」扱いましたが、全学連は京大生や京都市民をはじめ全国の方々の協力で全員の不起訴釈放をかちとりました。さらに、16年度同学会予備選挙で作部羊平候補者団は「再びのバリストを支持する学生は信任を」と強い決意で訴え、有効投票数687票中過半数を超える得票で信任されました。警察の脅しをのりこえた多くの学生の決意、再びのストライキの可能性に追いつめられた京大当局はさらなる暴挙に手を染め、一方的に4人の京大生に「無期停学」処分を通告したのです。

安保関連法(戦争法)が強権的に制定・施行され、防衛省と大学の軍事研究が公然と始まり、学生・労働者家族の貧困につけこんだ「経済的徴兵制」が今や大学の日常になろうとしています。かつて、アジア侵略戦争での軍部独裁を可能とした背景には、京都学連事件をはじめとする学生運動の壊滅、労働運動の壊滅・屈服が前史としてありました。改憲をめぐる現実の焦点はここに凝縮されています。「自由の学風」を掲げる京都大ですら憲法の理念は踏みにじられ、山極総長一川添副学長など自称「リベラル」の教授たちがこれに加担しています。全学連は法政大や沖縄大など、全国大学でも同様の事態に直面しており、社会全体の問題として、腐敗した大学・知識人のあり方と対決するべき時がきたと考えます。

バングラデシュ・テロ事件で衝撃的に暴き出されたように、日本政府・大企業は「国際協力」と称して、日本の10分の1以下の低賃金をバングラデシュ労働者に強制し、搾取の限りを尽くしていました。文科省の指揮の下、多くの大学で進行している「グローバル人材の育成」の実態も暴き出されたのです。京大反戦バリストは、このような教育のあり方に真っ向から反対し、現実の厳しさから学生運動の現状を正当化することなく、未来を見すえて闘われた闘争でした。

あらためて労働者・学生・市民のみなさんに訴えます。「大学教授」の地位に居座って「政権批判」を飯のタネにするペテン師たちと決別し、戦争・貧困の政治をとめるため、4学生の処分撤回のためにもともに声をあげましょう。隣の仲間知らせる、京都大に抗議電話を入れる、カンパをする等々…、一つひとつのできることを集め、京都大・文科省・安倍政権の暴挙をひっくり返し、社会を変えていく闘いに挑戦します。支援・連帯をよろしくお願い致します。(了)

【当面する行動方針】

●7・31革共同政治集会～資本主義は終わりだ！ゼネスト・革命を！

7月31日(日) 午前11時半開場

江戸川区総合文化センター(江戸川区中央4-14-1)にて

●改憲・戦争・核武装の安倍倒せ！被爆71周年 8・6ヒロシマ大行動

8月6日(土) 7:30 原爆ドーム前集会

8:15 黙とう後デモ

12:30 広島県立総合体育館小アリーナで集会

15:00 8・6ヒロシマ大行進(デモ)

16:30 原爆資料館前解散

【呼びかけ】被爆71周年 8・6ヒロシマ大行動実行委員会

